



学校だより



NO.7
東京女学館小学校
令和8年10月13日

子どもの学力

小学校長 盛永 裕一

十月末に、子どもたちに通知表を渡します。今年度から、通知表の配布は十月と三月の年二回となりました。お子様の様子を、個人面談で直接お伝えする内容を充実させること、時期をずらして詳しくお知らせする機会をもつことを考えてのことです。

私が教員に採用された頃、通知表の評価は各教科五段階の相対評価でした。もちろん、現在のような観点別ではありません。教科ごとに各学級で上位から順位をつけ、上位五パーセントが五、二十五パーセントが四。このように、学級集団の中で、相対的に評価していたのです。

現在は子どもの学力観も変わり、多くの学校では、文部科学省の学習指導要領に定められている観点別の評価規準をもとに、その学年で身に付けておくべき学力に達しているか、いないかで評価します。本校でも、以下の要領で子どもの学力を評価しています。

【絶対評価】

学習指導要領に示されている学力が身に付いていれば「よい」、身に付いていなければ「もう少し」と評価します。「よい」の中でも、著しく満足できる状況であれば「大変よい」となります。学級集団の中で、何パーセントが「よい」になるといような人数の配分はありません。

【観点別評価】

各教科で通知表に記載されている文言は違いますが、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう姿勢・人間性」の三観点で評価します。三つ目の観点は主に「主体的に学びに向かう姿勢」として評価します。本校の通知表では、それぞれの教科において以上の三観点の順に評価しています。

具体的な例で考えてみます。

○場面 二年生のかけ算 「七の段をつくろう」

○内容 学習した事柄を使って、自分の力で七の段をつくる

二年生では、かけ算九九の学習をします。子どもたちは、二の段、五の段から始まって、三の段、四の段と学習が進みます。やがて、かけ算九九のきまりとして、「かける数が一増えると、答えはかけられる数だけ増える」、「かけられる数とかける数をひっくり返しても答えは同じ」、「五の段は、二の段と三の段のたし算で答えを求めることができる」などを理解します。

さて、七の段。今までの学習を生かして、自らの手でつくっていくことを期待します。既習内容のかけ算のきまりなどを活用して七の段をつくり出すことができたり、自分の考えを説明できたりすれば、思考力・判断力は「よい」となります。粘り強く考えていたり、お友だちの考えに熱心に耳を傾けたりしていたら、「主体的に学びに向かう姿勢」は「よい」と言えます。さらに、このような活動の結果、七の段を完成させ、活用できるようになったら「知識・技能」は「よい」と言えるでしょう。

通知表は、お子様の学びの成長を感じる手がかりとしてご覧ください。「よい」の数を以前と比較したり、叱る材料として用いたりするのはなく、これからの学びについて親子で考える時間にするという視点が大切です。通知表が、お子様のさらなる成長につながることを期待しています。なお、二学期には面談週間は予定されておりませんが、ご希望があれば遠慮なく担任にご相談ください。



館山校外学習 (9月30日～10月2日)

3年生担任

台風とにらめっこをしながら、3年生は初めての宿泊行事となる館山に向かいました。1日目はあいにくの雨と波のため磯採集は中止とし、行き先を鴨川シーワールドに変更しました。子どもたちは大迫力のイルカショーを見たり、様々な海の生き物を、水槽の前に群がって夢中になって観察したりしていました。

2日目は子どもたちのパワーで台風を吹き飛ばし、青い空のもと沖ノ島へ行きました。ガイドの方々の説明にじつくりと耳を傾け、海の自然についてたくさん知識を蓄える子どもたち。教えていただいたことを踏まえ、目をキラキラと輝かせながら楽しそうに貝拾いをする姿が見られました。午後は職人の皆様のご指導のもと、世界に一つだけの房州うちわ作りに挑戦しました。職人さんの繊細な手さばきや高い技術に驚きつつ、自分だけの素敵なうちわ作りに一生懸命取り組みました。

3日目は、宿舎前の浜辺を散歩しました。ガイドさんや清水先生から学んだ知識や前日までの実体験がしっかりと身についており、海の生き物の名前や特徴を詳しく口にする様子は、まるで小さな海の博士のようでした。渚の博物館でのウミホテルの発光体験では、掌で青白い光を放つ小さくて不思議な生きものに、命の神秘や力強さを感じ取っていました。

3日間の体験を通して新たな知識を得るだけでなく、集団生活の難しさを味わいながら友だちとの絆を深めた3年生。帰ってきたその姿は、一回り大きく、少しお姉さんになったように見えました。

沖ノ島たんけん

3A 児童

わたしがここにのこっているのは、沖ノ島たんけんです。まずはどうくつに行きました。どうくつは、日本軍のへいたいさんが、自分たちでほったと聞いて、すごいなと思いました。先の方に行くと、海の景色が見えました。景色がよかったです。昔はそこからきなどの船をみはっていたそうです。

次は貝ひろいに行きました。わたしは、たから貝をみつけました。たから貝とは、昔中国でお金に使われていた貝です。わたしはそれをたくさん見つけて、弟にあげようと思ったので、がんばってさがしました。たから貝のとくちょうは、表はきれいでピカピカしています。うらはギザギザが、中央にあります。ギザギザが上を向いていると、さがしやすいです。

そして家に帰って弟にたから貝をあげると、よろこんでくれたのでうれしかったです。たくさん集めてよかったなと思いました。



はじめての校外学習

3B 児童

わたしは館山で楽しみにしていたことがあります。それは、ウミホテルを見ることです。ウミホテルは米つぶよりも小さくてなかなか見つけることがむずかしい生きものです。そのウミホテルが見られて、とてもきょうなけいけんができました。

ほかにも楽しいことやうれしいことがたくさんありました。沖ノ島のビーチコーミングではいろいろなしゅるいの貝を見つけました。わたしの一番のお気に入りのはたから貝です。まき貝やフジツボも探せました。

かも川シーワールドではイルカショーを見たり、エイを見たりしました。ふ通の水族館では見られないふしぎな生きものも見られてうれしかったです。

お部屋も楽しかったです。友だちと夜まで遊んだり、おいしいごはんを食べたり、チョコレートケーキもおいしかったです。お風呂にはこんな天風呂があり、け色がきれいでした。とてもよい思い出を作ることができました。

来年の校外学習が今から楽しみです。

2年生 虫とり・梨もぎ 9月25日(金)

2年生担任

当日は曇り予報から一転、天気恵まれ夏のような暑さとなりました。多摩川の河川敷に到着すると、早速虫とり開始です。最初は「虫が苦手。」と言っていた子も、お友達とる様子を見てやる気スイッチが入り、夢中で草むらを探し回っていました。トノサマバッタやショウリョウバッタ、大きなエンマコオロギなど、たくさんの虫を捕まえ、大喜びで「とれた。見て見て。」と誇らしげに虫かごを掲げる姿が素敵でした。机上の学習だけでなく、実際に虫の様子を見て、触って、生活科ならではの貴重な経験を行うことができました。広場でお弁当を食べた後は、上原園さんから梨もぎ。JAの方の紙芝居を真剣に見て、上原さんから梨の取り方を教えていただき、大きな梨を3つもぎ、「楽しかったね…」と話し合いながら、重い梨をリュックに背負って満足顔で帰路につきました。

またひとつ大きく成長した2年生。ご家庭でも、虫とり・梨もぎのお話でいっぱいだったことでしょう。



2A 児童

わたしは校外学習で、虫とりとなしもぎに行きました。さいしょは、多摩川りよく地公園で虫とりをしました。公園は草がいっぱいでくすぐったかったです。おともだちがサポートしてくれたので、虫をにがさずにカゴに入れることができました。とてもうれしかったです。わたしはコオロギとバッタをつかまえました。コオロギがゴキブリのなかまだと、おともだちから教えてもらいました。みんなすごくわしかったので、おどろきました。つぎになしもぎに行きました。場所は上原園です。なしがかんたんすぐにとれておどろきました。わたしはぐるぐるまいてとるかと思ったけど、じっさいには、上にあげて下げて、ぐいっと引っぱるととれました。おともだちがなしの重さをはかったら重かったと言ったので、はかってみたら679グラムもありました。なしはおいしかったです。

2B 児童

虫とりをした時、バッタがこんなにともぶと思っていなかったで、びっくりしましたが、小さいバッタを5ひきもつかまえることができました。とり方は、まず何かがとんだらあみをかぶせて、バッタが中にいるかかくにんして、いたらそこをおさえて、そのままかごの上にあみをのせて、あみをおしたら虫が中に入ります。わたしは、さいしょは虫がとてもにが手だったけど、バッタを1ぴきつかまえたならとても楽しくなりました。

おべん当を食べたら、なしもぎにいきました。なしもぎをする前にかみしばいを読んでもらったら、なしを育てるのはこんなにもたいへんなんだとわかりました。なしのとり方は、まず大きいのをえらんで、なしのおしりをもち上げておすと、かんたんにとれます。わたしはお姉ちゃんから、「大きいのと中くらのと、小さいのをとってきて。」と言われたので、新高を2こ豊水を1ことりました。どれもとてもおいしかったです。

1年生 石拾い 9月28日(月)

1年担任

1年生は生活科の学習として、秋川溪谷へ石拾いに行きました。お天気が心配される中での出発でしたが、雨はほとんど降らず、お弁当の時には晴れ間も見られました。川原には色や形、大きさも様々な石がたくさんあり、子どもたちは真剣な眼差しで石を探し、重たい石を一生懸命運ぶ姿には頼もしさを感じました。「この石は魚に見えるよ。」と教えてくれた子がいましたが、後日、拾ってきた石を何かに見立てて絵を描く授業を行いました。子どもたちの個性が溢れた豊かな作品が出来上がりました。

石拾いの後には、川遊びも楽しみ、川の水の冷たさに驚きや喜びをおぼえたようでした。おうちの方が心を込めて作ってくださったお弁当を、お友だちと満面の笑みで頂く姿も微笑ましかったです。

秋の自然に親しみ、喜びいっぱいの1日となりました。そんな1年生の初めての作文です。ご覧ください。

1A 児童

わたしは、いしひろいで、めろんパンにそっくりないしをみつけました。しろっほいみどりいろでそっくりでした。いしは、ざらざらするものやつるつるするものなど、みんなさわりごちがちがついておもしろかったです。川にもはいました。つめたい川の中でおともだちとわらいあいました。おべんとうには、おにぎりややきそばやチーズなど、おいしいものがいっぱいはいっていました。おともだちといっしょにいしをひろったり、おべんとうをたべたり、とてもたのしかったです。またいきたいです。



1B 児童

きのう、わたしは、いしひろいにいきました。さいしょはいしの大きさがわからなかったけれど、いってみたらいろんないしがあったので、「こんなにいろんないしがあったんだな。」とおもいました。つぎに、川に入ってみたら、すごくつめたかったけれど、あそんでいたら、だんだんつめたくなってきました。さいごに、おべんとうをたべました。たべているときに、はれたので、うれしかったです。

あき川であそぶのがすきになったので、またいきたいなとおもいました。



『すずかけ 箏曲』

すずかけ担当教諭

9月8日から17日まで、各クラス2時間ずつ『箏曲』の授業が行われました。ご指導いただきましたのは、お箏クラブの顧問でいらっしゃる花岡操曙先生と先生のお嬢様でプロの演奏家である花岡操聖先生のお二人です。1年生は「ロバサン」2年生は「うさぎ」3年生は「かごめかごめ」4年生は「越天楽今様」5年生は「こきりこ節」6年生は「さくら」、日本の名曲に挑みました。初めて『お爪』をつけた1年生は、指先の痛みに耐えながらも、「きれいな音で演奏したい!」という一心で、力強く弦を奏していました。先生方からはどの学年にも「一曲を弾き終わって『終わり』ではありません。静かに消えていく『音』、『余韻(余音)』まで味わうのですよ。」というお話をいただきました。自分の鳴らした音とじっと向き合い、耳をすます子ども達の佇まいには、思わず大きな拍手を送りました。

毎年、「子どもの頃から良い楽器で演奏して、本物の良さを知って欲しいです。」という願いを込めてお箏をお貸しくださいます生田流箏曲松の実會家元である野坂操壽先生に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。また、5・6年生のボランティアのお母様方、ご協力ありがとうございました。

4A 児童

初めて花岡操聖先生に教えていただきました。越天楽今様という曲は、途中で音が速くなるので難しかったのですが、何度も練習をしたら、少しずつ上手に弾けるようになりました。また、初めてメロディと伴奏を合わせて弾きました。メロディは3行目が長くて難しかったです。4行目には斗も出てきました。メロディと伴奏を合わせると、とてもきれいな音でした。5年生で習う曲も楽しみです。

4B 児童

4年生のお箏のお授業では「越天楽今様」をひきました。4年生になってレベルも上がって難しくなりました。演奏するときにはよい音を出すために、姿勢も心がけています。また、初めての伴奏では、お箏クラブで練習したことも生かすことができました。これからも力強くひけるようにがんばりたいです。



白菊会バザー 9月27日(日)

総括部長

白菊会のバザーが開催され、たくさんの在校生と保護者の皆様、お客様もお見えになり、会場はにぎやかな雰囲気包まれていました。くじ引きコーナーは、とても長い列ができ、皆わくわくした顔で並んでいました。他にも、かわいらしい手作りのブローチやキーホルダー、きれいな刺繍が入った袋にエプロン、美味しそうなお菓子、噴水広場のゲームコーナー等、見ているだけでも楽しくなるお店ばかりでした。白菊会の方々の愛情を感じ、温かな気持ちがこみあげてきました。

白菊会の皆様、ご準備から本当にありがとうございました。



4年生 下水道キャラバン 9月28日(月)

担当教諭

「住みよいくらしをつくる」ための社会の仕組みのひとつである下水道について、映像・実験・クイズを通して学びました。これまでに学習してきた「水道」の学習の続きでもあり、今後の、「ゴミの処理と再利用」の単元につながる内容でもありました。児童の感想から今回の授業の様子を紹介します。

A組 児童

授業でやる前までは雨水ますのことをまったく知りませんでしたが、下水道キャラバンの実験で、葉やごみなどでふさがっていると、雨水ますに水が流れ込まなくなると、こんなにも町が危険になることが分かりました。それから、わたしたちはいつでも清けつな水やトイレが使えるけれど、世界には、川の水をそのまま使ったり土をほってトイレ代わりにしたりしているところがあることが心に残りました。



B組 児童

わたしは、下水道キャラバンでたくさんのことを知りました。日本でも昔は、石けんのあわやごみを川にそのまま流していたこと、外国では今もそういう国があることです。実験も楽しかったです。雨水ますがふさがっただけであんなに早く町が水ぼつしたり、1階まで水が上がってしまったりすることにびっくりしました。これからは、かみの毛や油を流さないように気をつけようと思いました。



お知らせ

令和8年10月1日から「カスタマーハラスメント」防止措置が学校設置者を含む事業主の義務となりました。厚生労働省の「カスタマーハラスメント防止指針」を踏まえ、文部科学省および東京都教育委員会が作成したガイドラインを後日 BLEND にて配信いたします。お読みいただき、ご理解、ご協力をお願いいたします。

10月の生活目標 「礼儀作法を正しくする」

礼儀作法は、人と人とが気持ちよく生活するために大切なものです。特に明るい気持ちのよい挨拶や丁寧な言葉遣い、最後まではっきり話すことは、生活の基本でもあります。そして、素直に「はい」と返事をする習慣も大切にしたいものです。また、近頃、友だちの名字を呼び捨てにしたり、乱暴な言葉遣いで話したりしている姿をよく見かけます。相手が不快に思う呼び方や話し方を改め、優しい言葉やきれいな言葉がたくさん聞こえる学校にしたいと思います。ご家庭でも、「礼儀作法見直し月間」としてお取り組みください。

10月の行事



「行事予定」は非公開とさせていただきます。